

令和6年度 社会福祉法人一宮市社会福祉協議会事業報告書

2024年3月13日に理事会、同年3月27日に評議員会を開催し、令和6年度事業計画及び予算案が審議可決された。これに基づき、社会福祉事業の効率的運営を図り、組織活動を推進し地域福祉の向上に資するため、次の諸事業を行った。

< 社会福祉事業 >

1. 法人運営事業

(1) 役員数	15名
理事	11名
監事	4名
(2) 評議員数	16名
(3) 役員会等の開催	
① 理事会	開催回数 4回
② 評議員会	開催回数 3回
③ 監事会	開催回数 2回
④ 評議員選任・解任委員会	開催回数 2回

2. 企画・広報事業

(1) 市民福祉基金等への寄付者を顕彰 顕彰者数 9件

(2) ウェブサイトによる情報提供

分かりやすい情報提供並びに、ブログによりいち早く最新の情報を提供した（ボランティア情報等）

(3) 一宮市と一体的に策定した地域福祉活動計画の周知を図った。

3. 地域福祉活動推進事業

会員会費等を財源として、社会福祉事業を実施し、支会組織の充実強化並びに地域福祉活動を推進した。

(1) 会員

① 一般	2,744 口	1,371,910 円
② 団体	735 件	49,913,370 円
③ 法人	63 件	365,500 円

(2) 地域福祉活動推進事業

① 支会活動費

・ 支会活動交付金 46,485,702 円（会費総額の90%）

・支会活動助成金 44,232 円（見守りネットワーク事業）

②地域活動振興費

・支会活動交付金 5,165,078 円（会費総額の 10%）

・共同募金実績割 2,409,000 円（前年度共同募金実績額の 7%）

③災害時要援護者支援活動費

災害時における、ひとり暮らし高齢者・障害者など災害時要援護者の支援体制整備、平時からの見守り体制整備等を図るため、災害時要援護者支援活動事業を実施した。

- ・地域支援者（町会長・民生児童委員）による災害時要援護者支援制度の登録者の登録内容の確認
- ・避難所や避難経路の確認
- ・災害時要援護者支援制度の周知や新規登録の促進

No.	支会名	登録者数	登録内容 変更者数	登録内容 変更率	新規 登録者数
1	貴船	95	6	6.3%	0
2	神山	106	19	17.9%	1
3	大志	29	3	10.3%	1
4	向山	134	23	17.2%	1
5	富士	67	11	16.4%	0
6	葉栗	67	20	29.9%	0
7	北方	150	37	24.7%	0
8	朝日	166	91	54.8%	15
9	木曾川町	139	54	38.8%	3
合計		953	264	27.7% <small>(平均)</small>	21

(3) 支会長・民生児童委員会合同研修の開催（写真①）

開催日：2月18日 参加者：42名

【講演】「災害に備える地域活動」

講師：愛知県防災安全局防災部防災危機管理課 課長補佐 青山幸久氏

4. ボランティアセンター活動事業

地域住民の社会貢献に関する理解と関心を深め、ボランティア活動の育成援助と必要な連絡調整を密にし、社会福祉の増進を図るため、ボランティアセンター事業を推進した。

(1) ボランティア登録者数 325 グループ（7,447名） 個人 101名

(2) ボランティア活動保険料の一部を補助し、ボランティア活動を援助した。 5,132名

(3) 各種ボランティア養成講座を開催した。(写真②、③)

	講座名	開始日	回数	受講者	定員
1	点訳講習会	6月25日	10	15	15
2	手話奉仕員養成研修(基礎)	6月25日	25	12	20
3	手話奉仕員養成研修(入門)	7月10日	20	19	20
4	夏休みこども点字教室	7月25日	5	13	13
5	夏休みこども手話教室	7月25日	5	20	20
6	こどもボランティアスクール	8月25日	4	18	20
7	防災ボランティアコーディネーター養成講座	9月14日 9月15日	2	31	30
8	傾聴ボランティア養成講座	2月27日	3	40	40
9	視覚障害者ガイドヘルプ講習会	3月4日	1	12	20
10	文字で伝えるボランティア講座	7月2日	5	3	10

(4) 声の広報を発行した。(市広報 月1回、社協広報紙 年3回、保健所だより 年2回 議会だより 138 年4回、をカセットテープ及びCDに吹込み、視覚障害者に郵送した。)

延べ人数 カセット 99名、CD 283名

(5) 西尾張ブロックボランティアフェスティバル開催に参画した。

開催日：2月15日 会場：アデリア総合体育文化センター(岩倉市)

参加者：約200名

(6) 青少年等ボランティア福祉体験学習(写真④)

実施期間：7月22日～8月21日 参加校：23校 参加生徒延べ239名

受入施設：38施設

(7) 家庭体験事業

施設で生活している子どもたちに、ボランティアの家族とのふれあいを通して、家庭生活を体験する機会の調整を図ったが、希望はなかった。

(8) ボランティアセンター運営委員会

一宮市におけるボランティア活動推進に必要な取り組みについて協議をした。

開催日：7月25日、3月12日

(9) ボランティアつなげ隊 138

ボランティアセンター運営委員会で決定した、ボランティアセンター機能強化方針に基づき、ボランティア実践者により具体的な事業内容を検討した。

開催日：9月6日、11月15日、12月6日、2月14日

(10) ボランティア活動の啓発を図り、市民に参加を呼び掛けるため「いちのみやボランティアフェスティバル 2024」を開催した。

開催日：10月20日 会場：一宮スポーツ文化センター

来場者：2,300名 出展団体：42団体

(11) 災害ボランティア支援

① 令和6年能登半島地震における被災地復旧・復興支援のため、稲沢市社会福祉協議会と合同で「災害ボランティアバス」を運行し、災害ボランティアを現地に派遣した。

活動日：7月6日（7月5日深夜出発） 活動場所：石川県珠洲市

参加人数：41名（ボランティア37名・社協職員4名）

② 令和6年能登半島地震における被災地復旧・復興支援のため、県社協からの依頼を受けて、珠洲市災害ボランティアセンターへ本会職員を派遣し、現地の災害ボランティアが円滑に活動できるよう応援業務を行った。

派遣人数：4名

派遣期間：4月3日～4月9日（第18クール）、4月11日～4月17日（第20クール）、4月27日～5月3日（第24クール）、12月12日～12月16日（第70クール）

5. 共同募金配分金事業

配分金事業として各種事業を実施した。

(1) 高齢者福祉活動事業

① 各支会が実施する敬老の日行事の費用の一部を助成した。

実施時期：9月・10月 対象者：満77歳以上 総対象者数：52,501名

② 老人クラブ連合会事業に協力し助成した。

③ 数え年100歳の高齢者に対し、長寿祝金を贈った。 126名

(2) 障害児・者福祉活動事業

① 障害者団体・施設に助成した。

② 市内におけるユニバーサルスポーツの環境を整えるため検討会を開催した。

3回（6月6日、11月28日、2月27日）

③ 全市的なイベントとして、ユニバーサルスポーツ体験交流会を開催した。

開催日：3月15日 会場：いちい信金中央アリーナ（いちのみや中央プラザ）

参加者：99名（協力者含む）

④ 就学前の幼児と障害のある児童を対象にした「おもちゃ図書館」を開設し、遊びを通じて楽しいふれあいと、子育ての情報交換の場を提供した。

2か所 利用人数：延べ1,921名

（内訳）おもちゃの城 993名 なかよし 928名

⑤日常生活の便宜を図るため、身体に障害がある者、または疾病等で一時的に必要になった者等に車椅子を貸出した。

車椅子の貸出し 621回（車いすドクターズにより年1回点検）

(3) 児童・青少年福祉活動事業

①児童生徒の福祉善行精神を高揚するため、小中学校の児童生徒の表彰を実施した。

62名

②福祉推進校に協力し助成した。

65校

③子ども会等各事業に助成した。

④福祉実践教室を開催した。

61校

より実践的な学びにつなげるため、学校教育課スクールソーシャルワーカーと連携した福祉実践教室 事前学習を実施した。（写真⑤）

4校

⑤こども盲導犬教室を開催した。 開催日：12月23日 参加者：44名

⑥児童養護施設・母子生活支援施設に入所している児童へ新年祝品を贈呈した。

4施設 109名

(4) 福祉育成・援助活動事業

①生活困窮者等に法外扶助給付を実施した。

1件

②行旅人に移送費を支給した。

3件

③生活保護世帯の保育園児に給食費の一部を支給した。

延べ人数 285名

④生活保護世帯の児童・生徒の修学旅行費の一部を支給した。

小学校 14名、中学校 11名

⑤福祉育成・援助活動事業等を行う団体に協力し助成した。

⑥社協広報紙「いちのみやの社会福祉」を年3回発行し、本会の活動及び実施事業全般についての啓発に努めた。 6・10・2月号 各144,000部（全戸配布）

⑦福祉のまちづくり運動を推進した。

市民の福祉への関心を高めるため福祉七夕笹を尾西庁舎玄関前へ飾った。

6月30日～7月12日

福祉作品展（びさいまつり同時開催）において福祉団体・ボランティア団体の手作り作品を展示即売し、市民に福祉の啓発を行った。

⑧ふれあい・いきいきサロン活動に援助、協力した。

・運営費補助 87サロン

・立上げ時物品購入補助 3サロン

・ふれあい・いきいきサロンリーダー交流会の開催

開催日：7月4日 参加者：35名

開催日：12月17日 参加者：54名（市おでかけ広場と合同）

開催日：2月20日 参加者：20名

・出張サロン 実績なし

(5) ボランティア活動育成事業

- ①地区ボランティア活動推進に助成した。 23 支会
- ②登録ボランティアグループの活動の振興を図るため、助成した。 41 団体

(6) 歳末たすけあい配分金事業

満 70 歳以上のひとり暮らし高齢者に民生児童委員の協力を得て、歳末訪問品を贈り見守り活動を行った。また、「いちみんキット（緊急医療情報キット）」を未配付の対象者に、緊急時の備えとして併せて配付した。

実施時期：12 月 対象者：5,228 名

6. 資金貸付事業

民生児童委員との連携を図り低所得者等の自立の援助に努めた。

(1) 県社会福祉協議会の生活福祉資金申請受付代行

- ①福祉費 申請受付 4 件
(4 件 4,209,000 円が貸付決定)
 - ②教育支援資金 申請受付 4 件
(2 件 1,355,000 円が貸付決定)
 - ③臨時特例つなぎ資金 実績なし
 - ④不動産担保型生活資金 実績なし
 - ⑤緊急小口資金 申請受付 62 件
(62 件 2,057,000 円が貸付決定)
 - ⑥総合支援資金 実績なし
- (2) 生活資金 実績なし(貸付制度終了)
- (3) 福祉金庫 貸付件数 2 件 60,000 円
- (4) 暮らし資金 実績なし

7. 居宅介護等事業

訪問介護員が介護保険法及び障害者総合支援法に基づく、居宅介護サービスの提供及び市から受託した育児支援事業を実施した。

- (1) 指定訪問介護事業 (介護保険事業) サービス提供回数 延べ 21,548 回
- (2) 指定居宅介護事業 (障害福祉サービス事業) サービス提供回数 延べ 16,631 回
- (3) 移動支援事業 サービス提供回数 延べ 1,813 回
- (4) 育児支援家庭訪問事業 サービス提供回数 延べ 96 回

8. 居宅介護支援事業等

介護支援専門員が介護保険法に基づき、居宅介護支援及びあんしん介護予防事業における介護予防ケアマネジメントを行った。

また、市から受託した介護認定調査（新規）を行った。

(1) 介護認定調査（更新）	延べ	60 件
(2) 要介護ケアプラン作成	延べ	1,364 件
(3) 介護予防ケアプラン作成	延べ	551 件
(4) 事業対象者ケアプラン作成	延べ	30 件
(5) 介護認定調査（新規）	延べ	51 件

9. 相談支援事業

相談支援専門員が障害児・者及びその家族等からの相談に応じ、問題解決に取り組んだ。

また、契約に基づき「サービス等利用計画の作成」・「モニタリングの実施」を行った。

(1) 相談支援	延べ	12,390 件
(2) 計画等作成	延べ	785 件

10. 福祉サービス利用援助事業

県社協からの受託事業として自らの判断で適切な福祉サービスを受けることが困難な認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等が地域で自立した生活が送れるように福祉サービスの利用援助、日常的金銭管理サービス、書類等の預かりサービスを行った。

利用者数 94 名（令和 6 年度末時点） うち新規契約者数 12 名 解約者数 10 名

11. 市受託事業

市からの受託で各事業を実施

(1) 重層的支援体制整備事業

地域住民やその世帯の複雑・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、「対象者の属性を問わない相談支援」「多様な社会参加に向けた支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施した。

①新規ケース受付件数

多機関協働事業	10 件
参加支援事業	実績なし
アウトリーチ等継続的支援事業	12 件

②個別相談支援実績

多機関協働	348 件
アウトリーチ等継続的支援	64 件

③多機関協働に関する活動

途切れない、重層的な支援体制の構築のため、福祉関係者間の「連携」を深めることを目的として、講演会を実施。（写真⑥）

開催日：3月18日 参加者：43名

講師：同朋大学専任講師 加藤昭宏氏

④参加支援に関する活動

- ・社会とのつながりをつくるために、誰でも気軽に立ち寄れるこころの居場所（フリースペース）の立ち上げ支援及び運営支援を行った。（写真⑦）

開催日：毎月第2火曜日 午後1時30分～3時30分 会場：松鶴寺

- ・居場所に関するアイデア会議を開催し、関係機関が協働できる関係づくりを行った。

開催日：2月3日 参加者：20名

⑤普及啓発

個別ケースを通じ、障害に関する普及啓発のための勉強会を奥町連区民生児童委員協議会にて実施した。困りごとを抱えた方が地域で社会参加ができるよう理解を促し、相談先としての周知を図った。

(2)生活支援体制整備事業

- ①地域において多様な生活支援サービスを提供する仕組みを構築するため、第1層生活支援コーディネーターとして各種団体の連携強化を図った。

- ②第2層生活支援コーディネーターと連携を図り、必要に応じて地域分析や必要な施策を検討し地域住民と情報を共有した。

- ③本事業を推進するため、丹陽町連区を対象にした地域支え合い研修を実施し、普段のつながりの大切さを普及啓発した。

開催日：6月19日(丹陽町) 受講者：61名

また、支え合い研修で得られた地域のお宝（自然なつながり）を市全体で共有し、普段のつながりの大切さを伝えるために「地域のお宝発表会」を実施した。

開催日：3月23日 参加者 43名

講師：ご近所福祉クリエイター 酒井保氏

- ④住民相互の助け合いによる会員制の生活支援サービス「ちょこボラサービス」を実施した。（写真⑧）

利用会員 566名 協力会員 153名

サービス提供時間 延べ 1,255時間

- ⑤高齢者（65歳以上）を対象にした「気軽に学べるスマホ講座」を開催した。

開催日：11月12日（午前・午後） 受講者：延べ39名

- ⑥高齢者（65歳以上）を対象にした「初心者向け料理教室」を開催した。

（写真⑨）

開催日：（前期）6月24日、7月1日 受講者：12名

（後期）11月22日、11月29日 受講者：10名

(3) 子どもに対する学習・生活支援事業

市内4ヶ所において、高等学校等への進学を目指す中学生を対象に、学習・生活支援を行った。

開催日：原則、第1～4土曜日 午前9時30分～11時（全44回）

利用者：59名（うち中学1年生25名、2年生15名、3年生19名）

※中学3年生19名のうち15名の高校進学を確認

(4) 一宮市成年後見支援センター運営事業（写真⑩）

認知症、知的障害、精神障害等により判断能力が十分でない人に対して、成年後見制度の利用をはじめとする適切な権利擁護支援が行われるよう中核機関である「成年後見支援センター」を開設し、広報や相談支援等を行った。

開設日：3月10日

相談件数：延べ27件（※3月10～31日）

12. 基金運営事業等

基金の適正な運用に努めた。その利息及び寄付金（市民福祉）をひとり暮らし高齢者とのふれあい事業等に活用した。

<収益事業>

自動販売機設置事業

一宮市立市民病院等に飲料自動販売機を6台設置し、来所者の利便を図り、その収益の一部を本会の貴重な財源として充当した。

手数料収入 1,385,125円

<文書公開の実施状況>

申出件数1件